



四国学院同窓会会長より挨拶

新たな同窓会活動の形

会長 山本 宏 1977年度人文学科卒業

同窓生の皆様におかれましては、同窓会活動にご理解とご支援を賜りまして感謝を申し上げます。新型コロナウイルス感染拡大の中、罹患された方々には謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。

この一年で私たちの日常生活や価値観は大きく変わりました。同窓会活動におきましても、2020年度開催予定でした支部総会を全て中止いたしました。人と人の繋がりで成り立っている同窓会組織が、今後どのような形で活動を展開していけるのか、発想の転換に思いがけずも気付かせてくれたものと捉えています。

ワクチン接種が徐々に浸透してまいりましたが、いまだ感染収束の先行きが見えません。現状に対応する為、また今後も起こりえる自然災害等により、同窓会活動を止めなくてよいように、従来の活動と同時に新しい活動の形を模索しながら継続していけるように検討しております。

2021年度支部活動については、感染状況、各自治体の方針、各支部代表のご判断を鑑みながら、可能な方法で開催できればと思っております。準備が整い詳細が決まりましたら四国学院同窓会ホームページにてご案内させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

一日も早く安心して生活ができるようになり皆様にお会いできる日を心待ちにしています。

2021年度主な同窓会活動

1 同窓生支援制度の実施

- ①「四国学院同窓会同窓生子弟・兄弟姉妹入学金支援制度」
- ②「四国学院同窓会同窓生の卒業後教育支援制度」
- ③「卒業証明書等発行手続き、大学施設借用手続き代行」

- 2 ホームカミングの支援
- 3 四国学院大学学生課外活動団体(個人)への支援
- 4 四国学院大学の企画・プロジェクトへの協力・提携
- 5 四国学院大学 学生就職支援
- 6 四国学院同窓会支部総会等の開催
- 7 同窓会会報「ロゴスだより」の発刊
- 8 ロゴス館(同窓会館)の運営 等

CONTENTS

P1 四国学院同窓会会長より挨拶
P2 同窓生からのおたより

P5 同窓会からのお知らせ
P7 2020年度活動トピック



四国学院同窓会
LINE登録実施中



◆◆ 同窓生からのおたより ◆◆

「人生の礎と彩を与えてくれた学舎」

金 永秀 (キム ヨンス) 1978年度人文学科卒業
 沖縄キリスト教学院大学学長



四国学院での学生生活は、人生の礎と彩の多くが与えられた時でした。入学当初驚いたのは、一見で入った食堂のおばさんから、大師信仰を説かれる程に善通寺は伝統が息づく街であったこと、高く積み上げられた本に囲まれた下宿生活をする先輩がいたことでした。友人達との語り尽くせない楽しい青春の日々を送りました。深夜まで

友人達と語り合っ下宿に帰り、母屋の風呂をお借りして大家さんに「こんばんは」とご挨拶すると、「おはようございます」と返ってきてご迷惑を反省したこともありましたが…。

在学中、クラブ活動二つを掛け持ちしました。一つは、空手部。乃木連隊の馬小屋を改修した道場での「組み手」稽古で、蹴りを受けて歯が4本折れたことがありました。仲間に迷惑と心配をかけたこと、未熟さを自覚させられましたが、共に流した汗と交流は忘れられません。

二つ目の参加クラブは福音聖歌隊でした。結成当初は、寄せ集めの素人集団のレヴェルでしたが、中内幸雄先生が赴任されてメサイア全曲演奏を提唱され、「聖歌隊」は合唱部の有志達と共にメサイア合唱団を結成しました。やがてメサイア公演は大学教育事業の一環となり、年間を通じて高度な合唱曲を練習したことで、歌唱レヴェルが格段に上がるのを実感しました。四国学院での第一回のオーケストラ付き演奏会からの参加という貴重な経験によって、音楽が生活の一部になりました。「聖歌隊」の主な活動は、大学の礼拝と市内教会での賛美奉仕でしたが、時には高知の教会に招かれたこともあり、車中見た四万十川の美しさに釘付けになりました。

ゼミ指導は、石丸新先生。謹厳な姿勢を保ちながらも、丁寧に指導いただきました。卒業論文「韓国プロテスタント教会の展開」は、今読むと稚拙なのですが、自分のアイデンティティーに重なる貴重な学びとなりました。この時の論文作成技術は、後の韓国での修士論文と米国での博士論文の基礎となりました。又、先生の講義「新約聖書神学」で学んだ聖書記者ルカの神学的モチーフは、「学」としてのキリスト教に接した初めての経験です。その他、得永新太郎先生の「政治学」で、ヘーゲル、マルクスの政治思想の学びも印象に深く残っています。真面目に授業に参加して、テストは完璧のはずが成績が本不意で、先生に問うと「講義とは別に何冊の書を読んだのか。それが反映されていない。」とのお答え。大学の学びの意味を教えられました。

学生生活を支えてくださった方々は、数知れませんが、「宗教センター」職員の仁信由美子さんは、姉のようにサポートして下さいました。得永幸子さんは一年先輩で、交通事故の後遺症から車椅子での生活でしたが、常に積極的で明るく、ハンディを物ともせずプロ並みの美声を響かせる姿に目を見張りました。卒業後に再開した時、全快して教員としてキャンパスを闊歩しておられる姿に大きな驚きと励ましを与えられました。

市内の教会は、四国学院の教職員の方々が多く集われ、そこで受けた御親切や思い出も数多くあります。浜島敏先生が自宅を開放され、持たれていた礼拝後のカレーライスが絶品でした。カレーを戴きながら、集う先生方の会話も大いに勉強になりました。その他、改革派教会や日本基督教団にも出入りして温かい交流を戴きました。

卒業後、神学を本格的に学んで牧師になり、韓国・米国留学の後に沖縄キリスト教学院大学の教員になりました。2020年、学長に選ばれて一年余。今でも、クリスマス礼拝では、学生時代から歌い続けたメサイアのハレルヤコーラスを、学生達に混じって歌うことを喜びとしております。感謝。(1975年～1978年度在学)

「手広く」 ————— 梶野 啓介

2003年度英文学科卒業・2006年度日本語教員養成課程修了
 2007年度文学研究科比較言語文化専攻修了

この「お便り」は、誰に語りかけるものか、どんなことばで書くべきか、何をトピックに書くべきか、さらにはどうして書いているのかもよく分からずに書いています。なので、とりあえず四国学院と「今」の私から思うことを書こうと思います。

私は英文学科に入学しました。英語が好きだから？英文学を勉強したいから？いやいや、ぜんぜんちゃうねん。むしろ、英語や文学は大っ嫌いでした。入学までの英語の授業は「英文法」「文法訳読」、まったく話せるようになるような気配はなく、むしろ英語が話せないという劣等感を叩きこまれた気分でした。文学もどうしてそれを「学習」しなければならないか、疑問しかもっておらず、理由も分からずに「学習」していました(今となってはその与えられた「学習方法」も意味があるものと理解できていますが)。さて、こんな言語学習が嫌いな私がなぜか英文学科に入学してしまいました。

言語の「学習」が大っ嫌いな私は、とにかく英語学習から逃げるように授業を選んでいきました。哲学・思想、社会学、教育学、英文

学科の科目からはコミュニケーション論など、おおよそ英語を学習することや文学を読み解くことを主目的にしたような科目からはとにかく逃げていました。

言語学習が嫌いな私は、今、日本語講師をしています。もっと正確に言う日本語のインストラクターをしています。「え？インストラクターってなんやねん」っていう疑問が出てきて当然だと思います。日本語講師って大きく分けて二つのスタイルに分けられると思います。一つは大勢の学生の前で知識伝達型の授業をするレクチャー、これはイメージしやすいと思います。そのレクチャーの前で私は嫌いな言語学習をしてきたので、言語を勉強する学習者みんなが意欲を持って取り組める方法とはとても思えません(その中でも高いレベルでターゲット言語をマスターできる人は一定数いるのですが)。じゃあ、対するインストラクターってなんやねん！おそろくイメージしやすいのはスポーツジムや水泳のインストラクターかな、と考えています。ジムのインストラクターは、必要に応じてモデ

ルを見せ、とにかくトレーニングを促す。そこでトレーニーは考え、自分
にあった方法を見つけ、実践に繋げていく。インストラクターは必要
に応じてアドバイスを与え、時に方法を修正する手がかりを与える。
動いて考える主体はあくまでもトレーニーなのです。日本語のインス
トラクターも日本語を使うことを促す存在で、講師から知識伝達をする
ことが一義的な目的では決まていないですね。

さて、そんなインストラクターをするときに、四国学院大学で学んだ
どんなことが役立っているの?はい、今一番役立っているのは、英語
が嫌いで逃げた先にあった哲学・思想、社会学、教育学、コミュニ
ケーション論などのおおよそ英語学習とは関連がないように思える
ような分野なんですね。ウイトゲンシュタインの「言語の限界は世界
の限界」、フロイトの「無意識」、ラカンの「現実界・象徴界・想像界」
「鏡像段階」、エリクソンからバトラーまでの「アイデンティティ」論の
系譜、コミュニケーション論の中で論じられている「エンコーディング
／デコーディング」。日本語は関係ないやん! いいえ、あるんです。
日本語を「習得」するってことはどういうことなのか、「習得」の過程
で学習者の思考はどう変わっていくのか、なりたい自分になるために
どういう言葉遣いをするべきなのか、そもそもコミュニケーションって
何なのか。これを考えてレッスンを考えると、無味乾燥なレクチャー

より、生き生きとした自分の日本語の習得につながると考えている
んですね。じゃあ、学術的に関連性を示せ!はい、無理です。おそらく
数百ページにもものぼる本になってしまいます。さらには私にはこの
理論を緻密につなげる能力はありません。

とにかく、インストラクターをするうえでまず考えているのが、日本語
の構造ではなく、社会生活の手段としての日本語、思考の手段と
しての日本語、世界を広げるための日本語なんですね。

最初、日本語教員になったときには、横道にそれた分野は日本語
教育とは関係ないと思っていたのですが、卒業／修了から十余年、
今になって「すべて」が生きてきていると思っています。「手広く」。
学術分野でもinter-disciplineや分野横断的などと言われて
います。学生時代もそう考えて過ごしてきましたし結果的に今
「手広く」が生きてきています。

在校生の皆様、これから入学を考えている皆様、四国学院大学
のメジャー制度の説明には「学びたい学問を主体的に選び、自分
の可能性を探りながら、実力をつけていけること」が掲げられてい
ます。幅広く自由に学問を楽しんでみてはいかがでしょうか。学生
ではない皆様も分野が違う本を手にとってみてはいかがでしょう
か。何かこれからのヒントが得られるかもしれません。

「日々前進」

永井 歩子(ニックネーム：チェビ) 2011年度文学部言語文化学科卒業



永井さん左から2人目

2012年度に文学部言語文化学科を卒業しました。生まれも
育ちも香川県です。大学時代はソフトボール部、新入生をサポート
するピアリーダーの初代メンバーとして活動しておりました。大学
卒業後は、精密小型モーターを製造・開発している、本社は東京、
オリエンタルモーター株式会社の高松香西にある事業所に就職し、
4年半働き、その後ニュージーランドワーキングホリデーで牧場での
生活、レストラン、ガイドとして1年ほど過ごしました。

帰国後、結婚式のフォトグラファー、エンドロールの撮影、編集、
その他撮影を行い、また最近では、琴平バス株式会社様と一緒に
海外向けのオンラインツアーの企画やうどんタクシーのYoutubeの
撮影編集も行っています。企業には就職しておらず、フリーランス
(個人事業主)でお仕事をしています。

今の私になったきっかけは2つあります。1つ目は大学時代の
出来事です。大学時代は、特に夢や目標も無くただ毎日の流れに
身を任せつつ、友人や先輩後輩と楽しく過ごす大学生活でした。
卒業研究を何にしようか考えていた時に、恩師が「ソ連崩壊の時に
シベリア鉄道に乗ってロシアを横断した」とお話し下さり、電車で
ヨーロッパまで行ける事に衝撃を受け、卒業研究は「シベリア鉄道」
について調べました。卒業旅行も兼ね、海外経験の無かった私は
異国の地ロシアを「シベリア鉄道」にて横断しました。シベリア鉄道

はロシアを横断しており、ウラジオストク(韓国の右上)から首都モス
クワまで一週間ほどかけて走る鉄道です。その時経験した日々は、
毎日の流れに身を任せる生活からは一転し、全てが刺激的でした。
言葉の通じないロシア人とのコミュニケーション、見る景色、感じる
空気、匂い全てが新鮮で、香川県で生まれ育った私の小さな世界
が広がりました。それは、恩師からのお話と、快く旅へ出させてくれた
家族や友人、実際に行動した自分自身のお陰だと思っています。

2つ目は、趣味で始めた写真です。大学卒業後、オリエンタル
モーター株式会社に就職し、最初のボーナスで高い買い物しよう
と、10万円ほどのカメラを購入しました。たまたま会社に写真コンテ
ストに頻繁に入賞する写真好きな方がおり、その方と一緒にコンテ
ストに出したりしていると私も四国新聞のコンテストや香川県展へ
の入賞を経験しました。入賞するたびに、周りの方からの感想を
耳にし、「身近にこんな場所あるんだ!」と心の温度が上がっている
のを感じると嬉しくなりました。また、全国の同僚から香川県には
何があるのか?と聞かれる度に「香川県=うどん」のイメージを強く
受け、写真でいろんな場所の景色を切り撮っている中、香川県にも
まだあまり知られてない絶景があるのでは?と景色を探していたと
ころ「父母ヶ浜のウユニ塩湖」を発見しました。今では溢れるほど人が
来ていますが、当初私が撮った2016年は誰もいなかった浜でした。



有名になったのは、その時撮った写真を三豊市の写真コンテストに出したのがきっかけで、私がニュージーランドに行っている間に、三豊市観光交流局の方がSNSでアップし、いつの間にか有名になっていました。その時「たった一枚の写真の影響力」を感じました。

そんな視野が広がった大学時代の出来事、誰かの心を動かせる写真の力が今の私を作っています。順風満帆に見える人生ですが、もちろん挫折も何度もしています。例えば、今年の8月にオーストラリアでウェディングカメラマンになる目標がありましたが、コロナで渡航できなくなり、落ち込む時期もありました。しかしそんな時に

コロナだから行けないのじゃ無く、オンラインでツアーをしている琴平バスさんにニュージーランドのツアーを作れると提案し、オンラインですがニュージーランドのツアーを企画し実行しました。

挫折し、落ち込み立ち止まるのではなく、別の視点から物事を考える事の大切さを、今まで出会ってきた方から学び、支えてもらいながら、一度しかない人生で後悔しないためにも新たな世界に飛び込む勇気で乗り越えています。

「世界と写真と想い」でこれからもより楽しく進んでいきたいと思っています。

柳 智恩(ユ ジウン) 2020年度カルチュラル・マネジメント学科卒業



私が四国学院大学で留学をするようになったきっかけは「日本語を学びたくて」とか「他の国で住んでみたくて」などの理由ではありませんでした。私は韓国でホテル外食調理学を専攻で大学に通っていた時、卒業の1年前に「日本旅行に行こう」と決心しました。その後、私が両親に「最後の夏休みには絶対日本に行く」と言ったら、父は「日本語を少しでも話せるようになったら飛行機のチケットを買ってあげる」と言いました。また、それを聞いたおじさんは「日本で遊ぶ時の費用をあげる」と言いました。これをきっかけに私は日本語勉強を始めましたが、勤勉でない私は「ひらがな」をやっと読むことができる程度でした。

私が韓国で通っている教会には、私と同じ大学を卒業した後、日本に留学をした女性があります。私の父は娘が最近日本語の勉強を始めたという話をその女性の方に伝えました。それを聞いた女性は「来週私が通っていた日本の大学を訪問する予定だったから、そこに行ってその話を大学に伝えます」と言いました。その大学は四国学院大学で、これを初めに私の3泊4日の日本旅行計画は、急に3年の日本留学に変わりました。私は、当時自分の専攻の料理について就職を悩んでいた時だったので、軽い気持ちで留学についてOKしました。

最初留学当時には足りない日本語の実力と留学を軽く考えた私の心のせいだったのか、半年間はとても大変な時間でした。しかし、時間が経つにつれて日本語を学ぶ楽しさを感じるようになり、日本人と会話ができるようになって本当に楽しい生活を過ごすことができるようになりました。最初の1年は、日本語の勉強に力を尽くして、2年目には心の余裕が生じ、留学生たちと日本の友達と一緒に旅行をしてたくさんの思い出ができました。その中で一番たくさんの思い出を作ってくれたのは留学生が受ける授業の一つである「日本事情」という授業でした。この授業を通じて私は日本の文化に対して詳しく分かるようになり徳島、愛媛、高知、広島、沖縄など日本の多くの地域を旅行してとても楽しい時間を過ごすことができました。その後、留学最後の1年を残して休みを迎えて韓国に帰りましたが、



コロナ事態によって日本に行けなくなり、約9ヶ月間韓国でオンライン授業を聞きながら日本に行く日を待っていました。その途中、大学で助けて下さったおかげで、私は新しいビザをもらって同年の10月に日本に戻ることができました。そうして私は幸いにも最後の学期を日本で送ることができて無事に卒業することができました。

私は日本で就職を考えていたので、前から就職説明会に参加していくつかの会社とコンタクトしたのですが、コロナ事態により日本に帰れなくなり、すべての連絡が途絶えてしまいました。それで、私は就職準備を最初からしなければならぬ状況でした。他の人と比べると、とても遅い準備だったので心配でしたが、就職できるという根拠のない確信を持って履歴書を作成して準備しました。私は一般事務職を基準に多くの会社を探してみましたが、なかなかなかったのでどうしたらいいか悩んでいるうちに、障害福祉施設に見学に行くことになりました。私は福祉のことは全く考えたこともないし、高校生の時からしていた障害福祉施設でのボランティア活動で福祉の仕事は本当に貴重な仕事だが、手に負えないという考えだったので、ただ見学だけしようと考えました。しかし、実際に施設に入った時、私の心は180度変わりました。「ここで仕事をしたら幸せになるだろう」とか「人間的に学んで成長することができる所だ」という考えがとても強くなり見学後、家に帰ってすぐに履歴書を作成しました。その後、面接やビザの書類の準備などの色んな手続き後、内定されました。

私は韓国での専攻はホテル外食調理学、日本での専攻は国際文化のマネジメントだったので、福祉に対する知識はほとんどゼロでした。今の時点で私は仕事をしてからある程度時間が経ちましたが、まだ学ぶことだらけの初心者です。しかし、私は仕事を習いながら体は大変ですが、本当に幸せで人間的に成長できると思った私の考えは間違っていないと確信しています。これからも私は人間的に成長するため、そして一緒に生きていく方法を学ぶために一生懸命頑張りたいと思います。

◆◆同窓会からのお知らせ◆◆

2020年度四国学院大学 学生課外活動支援

四国学院同窓会では、全国大会出場を果たした団体(個人)に対し、寄付および支援金支給により学生の頑張りを応援しています。監督、選手にお越しいただき、山本会長から支援金をお渡ししました。お住まいの近くで試合がありましたら、温かいご声援をよろしくお願いいたします。



天皇賜盃第89回日本学生陸上競技
対校選手権大会
(2020年9月 新潟県新潟市)

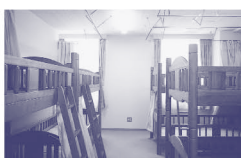


全日本大学サッカー連盟主催全国大会
#atarimaeni CUP
(2021年1月)

ロゴス館 (同窓会館) のご案内



ロゴス館
全景



2階 洋室
(6人、10人各1室)
1人1,500円/1泊
共用のシャワー棟



3階 個室
(4室)
1室 4,000円/1泊
お風呂・トイレ付
(タオル・浴衣有)



ホール
(約40席)



2階 和室
(8人程度 2室)
1人1,500円/1泊
共用のシャワー棟



3階 和室
(4人2室)
1室 9,000円/1泊
お風呂・トイレ付
(タオル・浴衣有)

新型コロナウイルス感染状況により、予約を受けられない期間や予約をいただいても使用を見合わせていただくことがあります。四国学院同窓会ホームページにてご確認ください。同窓生の皆様を早くお迎えできるよう願っております。

[お問い合わせ・申込] 四国学院同窓会事務局 ※ホームページから申込ができます。

住所変更届のお願い

四国学院大学の催し、各種同窓会等の案内をいたします。“転居先不明”で本会に郵便物が返送されてくる悲しいことになりませんように、ご自身で変更届をしてください。

同窓会封筒 広告募集

四国学院同窓会使用の角2封筒に広告を載せてみませんか？
同窓会員が関係する会社・団体なら申請できます。
申請内容を確認し役員会が掲載を決定いたします。

2022年度使用 角2封筒(印刷部数/約20,000枚)
広告サイズ 縦6cm×横8cm 掲載料/50,000円

[お問い合わせ・申込] 四国学院同窓会事務局

四国学院同窓会 会費納入のお願い

同窓生の皆様におかれましては、同窓会活動にご支援を賜りまして、深く感謝申し上げます。同窓会活動運営は、会費により成り立っております。皆様からお預かりした会費をいかに有効につかわせていただくかを考え活動しております。しかしながら、年々増える同窓生数により、将来的に同窓会財政が厳しい状況になってきております。

過去を調べてみますと、1981年度以前の卒業生は年会費500円、1982から1990年度は年会費1000円で10年分の徴収がされてきました。ついては、会費有効期間が満了しておられる1990年度以前の卒業生に、会費納入のお願いをさせていただくことといたしました。

同窓生お一人お一人のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■対象者と納付額

①1990年度以前の卒業生	25,000円(終身会費のみ)
②1991年度以降の卒業生で会費を納めていない方	30,000円 (入会金5,000円、終身会費25,000円)

■振込方法

- ①対象者は「払込取扱票」を同封しています。通信欄に、卒業年度・学科・旧姓もお書き添えくださるようお願いいたします。
- ②対象者で未納の方は、お問い合わせください。

※同窓会会費をすでに納めているか疑問の方はお問い合わせください。
 ※会費納入が重複した場合を除いて、一旦納入した会費は原則として返還はできません。寄附金とさせていただきます。
 ※同窓会会費未納の方は、各種同窓生支援制度等の対象となりません。

各支部への連絡がダイレクトになります

支部活動について、ご要望・ご意見等ございましたらお寄せください。

■各支部連絡先

メールアドレス

香川県支部	kagawa@sg-dosokai.jpn.org
愛媛県支部	ehime@sg-dosokai.jpn.org
高知県支部	kochi@sg-dosokai.jpn.org
徳島県支部	tokushima@sg-dosokai.jpn.org
広島県支部	hiroshima@sg-dosokai.jpn.org
岡山県支部	okayama@sg-dosokai.jpn.org
関西支部	kansai@sg-dosokai.jpn.org
関東支部	kanto@sg-dosokai.jpn.org
九州支部	kyushu@sg-dosokai.jpn.org
沖縄県支部	okinawa@sg-dosokai.jpn.org

四国学院同窓会 同窓生支援制度のご紹介

1. 四国学院同窓会同窓生子弟・兄弟姉妹入学金支援制度

同窓生および関係者の経済的支援を図り、同窓生本人、同窓生本人の父母・子・兄弟姉妹・祖父母・孫が入学する場合、入学金を全額免除する。

2. 四国学院同窓会同窓生の卒業後教育支援制度

四国学院大学では同窓生の学習意欲を応援しています。幼稚園・小学校等教諭免許状や社会福祉関係の資格取得を目標にしていたが、卒業までに必要な単位を修得することができず、改めて目指したい方、教養を身につけたい方のために設けられている制度です。最近では幼稚園教諭免許状、社会福祉士国家試験受験資格をとられています。

- ① 学部科目等履修生の登録料を免除する 20,000円免除
- ② 学部科目の科目等履修料を1単位毎に減額する 1単位 20,000円減額
- ③ 学部科目の聴講料を1単位毎に半額に減額する 1単位 5,000円減額

内容

四国基督教学園、四国学院短期大学、四国学院大学、四国学院大学院を卒業した者で、学部科目等履修生または学部科目聴講生として登録した者は、免除および減額します。ただし、四国学院大学院生として在籍している者は、対象とはなりません。



四国学院同窓会 LINE登録実施中!!

四国学院同窓会・四国学院大学の情報発信をしていきます。LINE登録をお願いいたします。

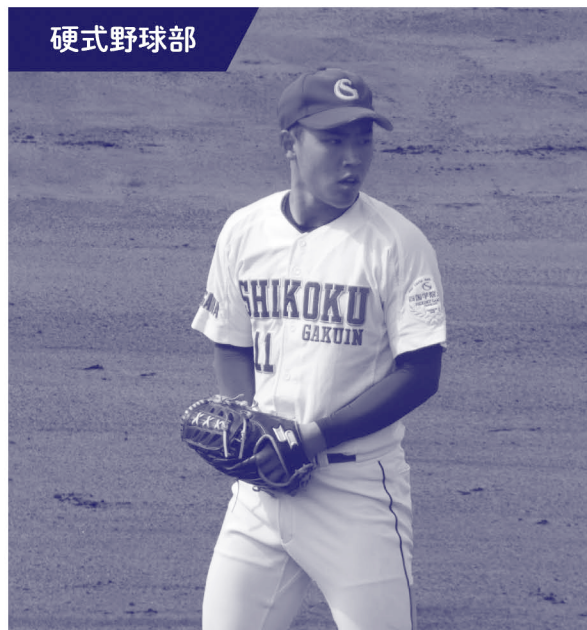


◆◆ 2020年度活動トピック ◆◆

硬式野球部

水上 由伸選手(2020年度卒)
埼玉西武ライオンズ育成5巡目ドラフト指名、
その後一軍昇格へ

2020年10月に行われたプロ野球ドラフト会議で、水上由伸選手が埼玉西武ライオンズの育成5巡目で指名されました。水上選手は本学卒業後、2021年5月に支配下登録、6月には一軍昇格を果たしました。背番号は69です。



水上由伸選手後援会
『由勝会』会員募集

HP <https://ym.yoshinobukouenkai.com/>



サッカー部

全国大会初勝利 全日本大学サッカー連盟主催全国大会
 (#atarimaeni CUP サッカーができる当たり前に、ありがとう!)



2021年1月、全日本大学サッカー連盟主催の全国大会『#atarimaeni CUP サッカーができる当たり前に、ありがとう!』にて、本学サッカー部が新潟医療福祉大学と対戦し、3-1で全国大会初勝利を飾りました。2回戦では優勝候補の順天堂大学を相手に2度もリードをする展開を見せましたが、PK戦の末、2-2(PK:2-4)で惜敗しました。また、吉田源太郎選手(現3年)がマン・オブ・ザ・マッチに選ばれるなど、選手全員が活躍を見せました。

陸上競技部

U-20 全国陸上競技大会 女子ハンマー投 3位入賞
中四国インカレ(女子ハンマー投・女子400mH)優勝

2020年10月、U-20全国陸上競技大会女子ハンマー投で吉川愛莉選手(現2年)が3位に入賞しました。また、2021年5月に行われた中四国インカレでは、吉川愛莉選手(女子ハンマー投)と藤田真緒選手(現1年・女子400mH)が本学初のインカレ優勝、男子リレー(4×100m、4×400m)では中四国の強豪校を相手に奮闘し3位入賞など、県内外の大会で優秀な成績を収めています。



ノトスタジオ公演情報

青年団公演『東京ノート』

作・演出：平田オリザ
日程：2021年10月15日(金)～17日(日)
(令和3年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業)

1994年の初演以来、13か国語に翻訳され世界16か国以上で上演されてきた、平田オリザ氏と青年団の代表作をお届けします。近未来の美術館を舞台に、日々の生活を送る現代人の姿が克明に描かれます。

サラダボール公演『マクベス dialogue』

原作：W・シェイクスピア
翻案・演出：西村和宏
日程：2021年11月13日(土)、14日(日)

本学准教授の西村和宏が主宰する劇団サラダボールは、『拠点四国』として四国圏域の現代演劇の普及、観劇文化の醸成を目的に、地域社会に根ざした芸術活動・教育活動に取り組んでいます。今回は、W・シェイクスピアの四大悲劇の一つである『マクベス』をアレンジして、お届けします。

ノトスキッズ『ドラゴンスイッチ』

作：西村和宏
演出：西村和宏 / 阪本麻郁 / カミケタクヤ
日程：2021年12月予定

本作品は、昨年度、コロナ禍でも地域の子どもたちに安心して楽しんでもらえるよう、1公演1組(4名まで)限定の体験型演劇として創作されました。普段入る機会がないノトスタジオのバックヤードを、演劇コースの学生が扮する動物たちと一緒に探検しながら、ドラゴンを見つけにいくというストーリーを再演します。

お問い合わせ

四国学院大学パフォーミング・アーツ研究所(SIPA) TEL:0877-62-2324 E-mail:sipa@sg-u.ac.jp

※新型コロナウイルスの影響により、今後も、公演日時に変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。最新情報は本学ノトスタジオHP(www.notos-studio.com)にて、ご確認ください。



食堂が新しくなりました

聖恵館と第1共生館が「アトリウムコイノス」「カフェテリアコイノス」としてリニューアルしました。カフェテリアコイノス(食堂)は卒業生の皆様もご利用頂けます。

<https://www.sg-u.ac.jp/2021/etc/31597/>



モーニング… 7:45～10:00
ランチ………… 11:00～14:00
カフェ………… 9:00～18:00
ディナー……… 18:30～20:00



2021年度 第60回 四国学院大学祭

開催日 10月31日(日)

問合せ先

四国学院大学祭実行委員会
4gaku.fes@gmail.com



図書館の利用について

同窓生もご利用いただけます。同窓生の著書も置くことができます。(寄贈 内容確認必要)

<https://www.sg-u.ac.jp/outline/library/>

